

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0970400388		
法人名	有限会社グループホーム・ナーシングハピネス		
事業所名	グループホーム・ナーシングハピネス		
所在地	栃木県佐野市小中町2011-4 (電話) 0283-20-1160		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】(平成22年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年11月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代、おむつ代、その他一実費を預かり金から支払い	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	有(入所3ヶ月以内で退所の場合は返金、以降は部屋の修繕費等に使用とし返金なし)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,334 円	

(4) 利用者の概要(平成22年1月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名	
要介護1		名	要介護2		名	
要介護3		3 名	要介護4		4 名	
要介護5		1 名	要支援2		名	
年齢	平均	91 歳	最低	82 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おぬき内科クリニック、ウエキ歯科医院		
---------	--------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、周辺に工場や住宅地、田園地帯が広がる閑静な場所に位置している。開設の経緯は、他市の病院で勤務していた看護師4人が認知症の高齢者が住み慣れた地域で介護や医療の支援による暮らしの場の提供を目的に開所に至っている。開所時から職員の離職や異動は少なく、馴染みの関係で継続的な支援に取り組んでいる。管理者と志をひとつにした看護師等の職員により医療依存が高い入所者も安心して利用できるホームであり、終末期や看取りにも本人や家族の意向、医師とも連絡を密にして積極的に取り組んでいる。また、入居者の最大の楽しみでもある食には特に気を使い、食材の選定や味付け等に工夫を凝らしている。開所から8年が経過し課題もあるが、管理者及び職員はそれらをよく理解しており、全職員で理念に基づいた支援に向けて取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は、自己評価や外部評価は自分たちの業務や日々の支援の振り返りの機会としており、評価結果については真摯に受けとめ、職員との話し合いをとおして改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員から確認をしながら管理者がまとめあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、奇数月に地域住民、民生委員、市職員、入居者、家族等の参加により開催している。ホーム側からの運営状況や行事等の報告や参加者からも意見や要望等を出してもらい、サービスの向上に活かしている。市担当職員への参加の呼びかけも行い、行政からの意見や情報共有化に取り組むたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	開設当初からの付き合いがある家族も多く、なんでも遠慮無く意見や要望等を出してもらえる関係が構築されている。また、運営推進会議や来所時にも常に意見や要望等の確認をしている他、家族会も設置されており、意見や要望等を表しやすい環境を整えている。家族から出された意見や要望等は真摯に受けとめ、職員間での話し合い等をおとして運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域行事への参加や公園への散歩時の会話、畑の手入れ等で地域住民との交流に努めている。また、近隣にある知的障害者施設との関係構築や隣接する地域住民とも良い関係を保っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が住み慣れた地域の中で心穏やかに生活が送れるよう、家庭的な生活環境の提供や一人ひとりの能力、残存機能に応じた適切な介護の提供等を運営理念としている。ホームでは理念の再認識をしながらも将来的には理念の見直しを行い、理念の簡素化も考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は居間の見やすいところに掲示している他、職員会議やカンファレンスの場でも理念を念頭においた話し合いをおこないながら、利用者本位のサービス提供に努めており、理念に基づく実践ができるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域行事への参加や公園への散歩時の会話、畑の手入れ等で地域住民との交流に努めている。また、近隣にある知的障害者施設との関係構築や隣接する地域住民とも良い関係を保っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価や外部評価は自分たちの業務や日々の支援の振り返りの機会としており、評価結果については真摯に受けとめ、職員との話し合いをとおして改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員から確認をしながら管理者がまとめあげている。	○	自己評価や外部評価の結果をとおして見えてきた課題等を全職員で話し合い、本人本位の支援を具現化していくことに期待したい。

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、奇数月に地域住民、民生委員、市職員、入居者、家族等の参加により開催している。ホーム側からの運営状況や行事等の報告や参加者からも意見や要望等を出してもらい、サービスの向上に活かしている。市担当職員への参加の呼びかけも行い、行政からの意見や情報共有化に取り組みたいと考えている。	○	ホームの安全・安心等の観点から運営推進会議に今後、駐在所の警察官や消防団等の参加を呼びかけ、運営推進会議がさらに充実したものとなることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の参加の場だけでなく、申請書類の提出時においても郵送にせず、出来る限り市担当部署へ足を運び、担当職員との連携を密にするよう努めている。今後は市や地域包括支援センターとの協働により、地域や入居者への支援に向けた取り組みを検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等の家族への報告は、家族の来所時等に職員からの口頭での報告の他、各々の記録等も閲覧して確認をしてもらっている他、緊急時等には電話でも報告をしている。職員に異動や離職があった場合には、その都度、報告や紹介を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設当初からの付き合いのある家族も多く、なんでも遠慮無く意見や要望等を出してもらえる関係が構築されている。また、運営推進会議や来所時にも常に意見や要望等の確認をしている他、家族会も設置されており、意見や要望等を表しやすい環境を整えている。家族から出された意見や要望等は真摯に受けとめ、職員間での話し合い等とおして運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、職員の異動はほとんど無い状態にあるが、今後、職員の出入りが予定されていることから、引継ぎを密にする等、入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンス時や会議を利用して内部研修会を行っている他、県や市等で開催される外部研修会にも積極的に参加をしている。参加したい外部研修がある場合には、勤務を交替する等して外勤で派遣している。研修受講後は、職員全員に資料の配付や伝達講習を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	看護師の資格を持つ職員が多いことから、同業者に看取り介護等の医療関係資料を提供している他、制度上の情報交換を行う等、他事業所との交流に努めている。また、他のグループホームの納涼祭に入居者と共に参加する等、同業者との関係が構築されており、相互のサービスの質の向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家庭訪問を実施し、本人や家族と面談をとおして要望や不安点などを確認している他、ホームでの暮らしぶり等について説明を行っている。また、見学や体験入居をとおしてホームの雰囲気や職員及び他の入所者と馴染みの関係をつくり、ホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者と共に暮らす同士として日々一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にしながら生活しており、野菜の栽培方法や収穫期、料理の調理法や味付け等、人生の先輩として多くのことを教えてもらっている。また、入居者の仕草や生活習慣からも学ぶことが多い。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向の把握には、入居時に本人や家族からの聞き取りや日々の生活のなかで確認に努め、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意向の表出が困難な入居者については、仕草や表情、日々の見守りの中から小さなサインを見逃がさないようにしている他、家族等の協力を得ながら把握に努めている。	○	認知度が進み、思いや意向の把握に困難さを感じているとのことだが、今後も入居者一人ひとりの生きざまや生活歴、家族からの助言、日々の生活における仕草や表情等により、本人の希望や意向を僅かでも掴み、職員間で共有していく取り組みに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人や家族の意向を確認したうえで、職員全員で対象者の機能別の対応を網羅し、医師等の助言も参考にして、管理者であるケアマネジャーがそれぞれの意見やアドバイスを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い確認している他、看護職の細かな気付きにより身体状態に変化が見られた場合等には、随時、家族とも連絡を取り合い、状態に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは24時間面会を受け入れており、家族は入居者と一緒に入浴したり食事を共にしている他、家族の宿泊なども柔軟に対応しており、多機能性を活かして入居者や家族の要望に応じている。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医での受診の際には職員が付添い、日常の様子を詳細に記録したものを医師に見てもらい、診断や調剤の参考にしている。また、本人の体調不良や特変時には、かかりつけ医等に搬送し受診をしてもらう他、往診をしてもらう等、状況に応じて適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設当初から、重度化した場合や終末期を向かえた入居者の看取りの支援を行っていく事をホームの方針としている。職員に看護職も多いことやかかりつけ医との連携により、開所7年目の昨年、ホームでの看取りを経験した。今後もかかりつけ医や家族等と密に連絡を取り合い、職員全員で方針の共有に努め、終末期や看取りに取り組んでいく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は、入居者の尊厳やプライバシーの確保に努めており、おむつの交換時は自室でドアを閉めて交換したり、トイレにさりげなく誘導する等している。入居者への職員の言葉かけや接遇は穏やかな態度で接し、本人の労を称える等、職員全員で話し合いを重ね、支援に取り組んでいる。	○	場合によっては入居者の尊厳を否定するような言葉を使ってしまう時もあるとの事から、家族の立場ではなく支援をする職員として入居者の立場を考えた対応に取り組むことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは1日の大まかな流れはあるが、一人ひとりのペースや希望、その日の感情に合わせた支援を行っている。食事や外出、入浴やレクリエーション等においても、まず、本人に確認してから、対応するようにしている。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは食事を重要なものと位置づけており、ただ食べるのではなく食材を吟味したり、食事の準備から後片付けまでを入居者に五感で感じてもらえるよう支援に努めている。職員は入居者と共に同じ物を会話を楽しみながら食べており、調理の方法や味付けを教えてもらうこともある。	○	同じ食材が多用されている感じがあるので、献立をたてる際などに食材に偏りのないようなメニューづくりに取り組むことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、職員の見守りや介助により、午後の時間帯で実施している。入浴の順番や拒否傾向が強い人には声かけを工夫しながら入浴が楽しめるよう配慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの趣味・趣向の把握や家族からの生活歴等の助言を参考に本人の役割、楽しみ事、気晴らしの支援に取り組んでいる。また、職員は入居者との日々の関わり合いの中からも把握に努め、支援に活かしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的なドライブや天候や入居者の体調を考慮しながら近隣への散歩も行っているが、入居者の高齢化・重度化に伴い外出が困難になりつつあり、今後の外出支援の取り組みの課題となっている。	○	入居者の高齢化や重度化に伴い外出支援が難しくなっているが、筋力低下を防ぐ運動やリハビリ等を取り入れ、残存機能を活かしながら外出支援に取り組んで行くことに期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、施錠することによる入居者への心理的な不安や閉塞感等の弊害を理解しているが、入居者の安全確保の観点から玄関については施錠している。居室には鍵をつけていない。		

グループホーム・ナーシングハピネス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の立ち会い等により消防訓練を実施している。夜間時を想定した訓練の実施や地域からの協力体制の構築にも取り組んでおり、有事の際に向けて入居者の安全・安心に取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取カロリーに気を付けており、献立の作成等においては栄養士から助言を受けている。また、食事や水分の摂取量の把握に努め、一人ひとりにあった適量が摂取できるよう支援に努めている。基礎塩分に気をつけ、味噌汁は朝1杯だけとしている。	○	水分摂取量は、季節により調整する必要もあると思われるが、1日に2000ccを目安に摂取することに期待したい。また、食事のテクスチャーが1品中に細かくした物が入っていることから、嚥下した後に口腔内や喉で残存し、誤嚥の恐れもあることから食事後に水ゼリー等を飲食し、咽頭部をきれいにするなどの取り組みにも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は日中を居間のソファ等で思い思いに過ごしており、壁には季節毎の飾り付けや花を飾るなど落ち着いた雰囲気を作られている。不快な臭いが無いうように換気や消臭剤で気を配っている他、入居者にとって光や音が不快かどうかを確認しながら対応に努め、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に本人や家族に馴染みの品々の持参を呼びかけており、入居者一人ひとりの持込まれている量や種類に差はあるが、使い慣れた家具や家族の写真等を持参している。認知症が進行し、自分の持ち物がわからない状態である入居者に対して、個性ある居室づくりの支援には難しさがあるが、居心地よく過ごせるよう配慮に努めている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。